



昭和館、しょうけい館で 春の企画展を開催しています



社会情勢を映し出した 戦中・戦後の双六を紹介

昭和館では、3月19日(土)から、特別企画展「双六でたどる戦中・戦後」を開催しています。

双六は、江戸時代に老若男女が正月に楽しむ遊びとして定着し、明治・大正時代には印刷技術の発達により、雑誌の正月号の付録として定番化しました。双六の内容や絵柄などには、当時の社会情勢や風俗・流行が取り入れられているのが特徴です。戦中は戦争一色の内容、戦後は平和的な内容や人気キャラ

○特別企画展の概要

- テーマ ●「双六でたどる戦中・戦後」
- 開催期間 ●【第1期：時局・教育・広告を中心に】
3月19日(土)～4月10日(日)
【第2期：憧れ・流行り物を中心に】
4月12日(火)～5月8日(日)
※4月11日(月)資料交換日
※毎週月曜日は休館(5月2日は開館)
- 時間 ●10:00～17:30(入館は17:00まで)
- 開催場所 ●昭和館3階 特別企画展会場
- 住所 ●東京都千代田区九段南1-6-1
(地下鉄「九段下」駅出口4から徒歩1分)
- 入場料 ●無料
- 問い合わせ先 ●昭和館学芸部：財満
☎03-3222-2577



昭和桃太郎双六 昭和8年(1933)
案：博英社優等生編集部・画：中西称吾

クターを描いたものが主流になりました。

本展では、昭和館所蔵の戦中・戦後の双六のなかから130点をテーマに分け、第1期では時局・教育・広告、第2期では憧れ・流行り物を中心に展示し、時代の変化を解説。双六に関連する実物資料も紹介します。会期中にはミニ展示会(講演会も開催)や昭和の体験イベントも予定しています。

戦病や戦傷病者の苦労を 資料やデータで伝える

しょうけい館では、3月1日(火)から、春の企画展「戦傷病とは?」第2部「戦病」を開催しています。

戦傷病とは、「軍人、軍属、準軍属の公務によって負ったケガや病気」のこと。今回の企画展は、昨年夏の「第1部 戦傷」に続いて開催されます。

戦病にはコレラやチフス、マラリアといった感染症や、軍隊と言われた脚気、行軍病など、さまざまな病気がありました。数日で命を落とすような病気のほかに、十数年経ってから発症

○春の企画展の概要

- テーマ ●「戦傷病とは?」第2部「戦病」
- 開催期間 ●3月1日(火)～5月8日(日)
※毎週月曜日は休館(祝日は開館・翌平日閉館)
- 時間 ●10:00～17:30(入館は17:00まで)
- 開催場所 ●しょうけい館1階
- 住所 ●東京都千代田区九段南1-5-13 ツカキスクエア九段下(地下鉄「九段下」駅出口6から徒歩1分)
- 入場料 ●無料
- 問い合わせ先 ●しょうけい館学芸課 木村
☎03-3234-7821



しょうけい館春の企画展
「戦傷病とは?」第2部「戦病」

する病気や、完治することなく後遺障害に苦しむ病気もあります。外見上は健康者と変わらない戦病者は、周囲からの理解を得られにくいため、戦後も苦労が絶えませんでした。

本展では、貴重な資料とデータで戦病を解説することで、戦傷病者の苦労をわかりやすく伝えます。関連イベントとして、第1・3・5週の土曜日14時より30分程度、学芸員による展示解説を行います。